

資料 4

林産物 4 品目の改正概要について (合板、集成材、単板積層材、直交集成板)

木質材料のJAS規格について(概要)

○木質材料(木材をいったん細分化した後、接着剤などを使用して再形成したものは、製造方法等により主に4種類に区分。CLTは最も新しくJAS化(H25.12)された材料。

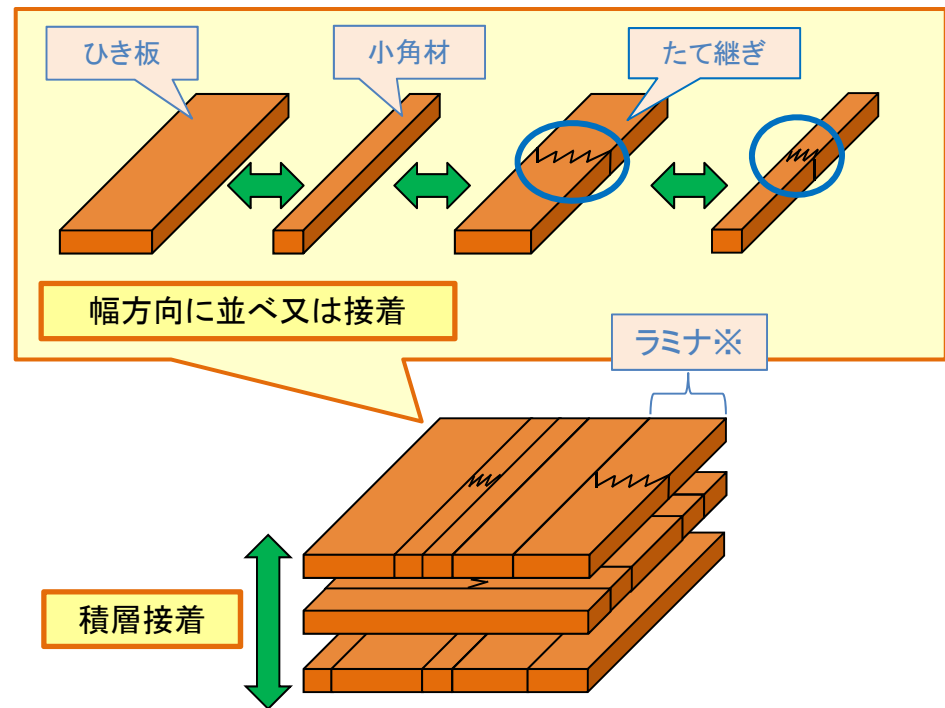
1. 木質材料の特徴

原料	繊維配向	平行	直交
ひき板		集成材	CLT
単板		LVL	合板

主に軸材(柱、はり等)として使用

主に面材(壁、床等)として使用

2. CLTの構成



※CLTを構成する最小単位のひき板又は小角材を幅方向に接着したもの

合板について(退色試験の廃止)

○合板は、単板3枚以上をその繊維方向を互いにほぼ直角にして、接着したもの。
○住宅の内装、家具などに用いられる特殊加工化粧合板について必要とされる退色試験について、今後も継続する負担に比して実施する実益に乏しいことから廃止。

1. 合板の種類

区 分	概 要	主な用途
①普通合板	一般的な用途に広く使われる合板	家具、楽器など
②コンクリート型枠合板	コンクリート打ち込み時に、その型枠として使用される合板	コンクリート型枠
③構造用合板	建築物の耐力構造上主要な部位に使用される合板	住宅の床、壁
④天然木化粧合板	普通合板の表面に、美観を目的として、天然木の薄い単板を貼った合板	住宅の内装用、家具など
⑤特殊加工化粧合板	普通合板の表面に美観や耐久性を目的として、天然木以外のものを貼ったり、木目模様などを印刷加工したりした合板(オーバーレイ合板、プリント合板、塗装合板など)	住宅の内装用、家具など

2. 退色試験の廃止

○近年では技術の進歩により変色が問題になることはほぼない状況。
○他の重要な試験と比較して市場評価に与える影響は低い。

特殊加工化粧合板に関する試験結果の比較

試験項目	試験体数	うち不合格	合格率
退色試験	1,836	3	99.8%
ホルムアルデヒド 放散量試験	1,836	29	98.4%

※登録認定機関からの聞き取り(直近3年間の試験結果)

※JAS規格では、合格率90%以上で基準に適合

集成材、LVL、CLTについて(接着性能に関する表示事項の見直し)

- 建築基準法関連告示において、壁、床、屋根に使用する集成材、LVL、CLTについて、接着剤の性能に応じて一定幅の「もえしろ」が必要との基準が新設されたところ。
- これに伴い、集成材、LVL、CLTについての表示事項として、接着剤の種類を追加。

1. 接着剤の種類と耐火性能

接着剤の種類	火災時の接着性能	もえしろ基準
レゾルシノール・フェノール樹脂等	高い	有利
その他の接着剤	低い	不利

※防火被覆なしで、準耐火構造の建築物の壁、床、屋根に集成材、LVL、CLTを使用する場合



施工段階において、接着剤の種類を確認できるようにすることが必要

2. 表示事項の見直し(例)

従来からの表示事項

追加する表示事項

品名

強度等級

種別

接着性能

樹種

寸法

厚さ

幅

長さ

ホルムアルデヒド放散量

製造者

使用環境B

名称(レゾルシノール・フェノール樹脂)又は略号(RPF)

集成材、LVL(主に柱、はり等の軸材として製造)については、壁、床、屋根等の面材として製造されるものに限る、表示事項に追加。

CLTについて(強度等級に関する表示事項の見直し)

- 建築基準法関連告示において、建築物の構造計算等に必要となる CLT の基準強度が、CLT を構成するラミナの等級によって定められた数値を用いて計算することとされたところ。
- これに伴い、CLT の表示事項としてラミナの等級を追加。

1. ラミナの等級と基準強度(例)



ラミナの等級によって定められた数値を用いて
CLTの基準強度を計算

施工段階において、ラミナの等級を確認できるようにすることが必要

2. 表示事項の見直し(例)

